自然感覚の木造住宅

森　史夫　編著
佐藤昭五　撮影

カントリースタイルから現代民家調まで
一流建築家の最新実例集

リビングダイニングを家の中心に置き 食卓の上部に円形の吹き抜けを設けました

設計／設計室MORI

❶南側外観。敷地と道路の高低差を利用して玄関とカーポートを下階に。上階にアトリエ、またその上に子供室、というファサード構成。

施主自身が彫刻という創作活動をしている。単に住宅にアトリエが付いているというだけでなく、建物と庭の全体を造形作品として考えてほしいといわれたような気がした。

敷地が前面の道路より五～六尺（一・五～一・八メートル）高いのを利用して、道路と同じレベルに車一台と自転車三台の車庫、その脇にポーチと玄関。コンクリートで造られた床の上に、吹き抜けをもつアトリエをのせる。アトリエから庭へ大きな親子扉を開けて作品や資材の搬出入口とした。将来、子供たちが世帯をもって同居することになっても、この部屋で独立して暮らせるという配慮もかねて……。

食事やだんらんのための広間を家の中心に置き、食卓の上部に直径九尺（二・七メートル）の円形の吹き抜けを開けた。その外周に沿った階段を上ると、ギャラリーのような二階のホールが家族それぞれの個室をつなぐ。夕餉（ゆうげ）のにおいが吹き抜けを上って、子供たちに食事の時を知らせる。円形吹き抜けを囲む幅広の台の下は書棚に、ホールの一隅にピアノ、一方の壁に本棚、そして小屋裏納戸、と空間はフル活用される。

一階広間の西寄りに書斎コーナー、まわりこんで和室へと連なる。近くに住む両親が訪れるための床の間をもつこの部屋は、明るく活動的な広間とは対照的な「静」の空間である。

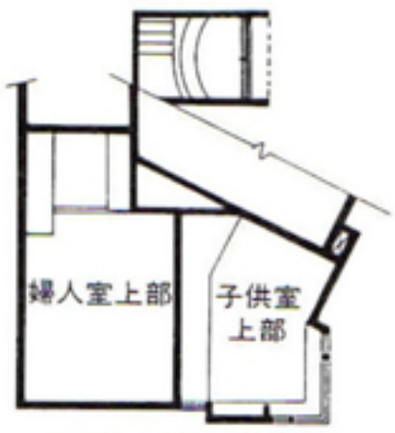
（森　史夫）

❷1階広間の西寄りにある書斎コーナー。右へまわりこんで、和室へ連なる。
❸1階書斎コーナーの奥にある和室。近くに住む祖父母たちが訪れるための部屋。広間の「動」に対して「静」の空間。
❹1階ダイニングスペースから書斎コーナーへと続く広間。上部は円形に吹き抜けて、2階ホールと一体の空間を形成する。

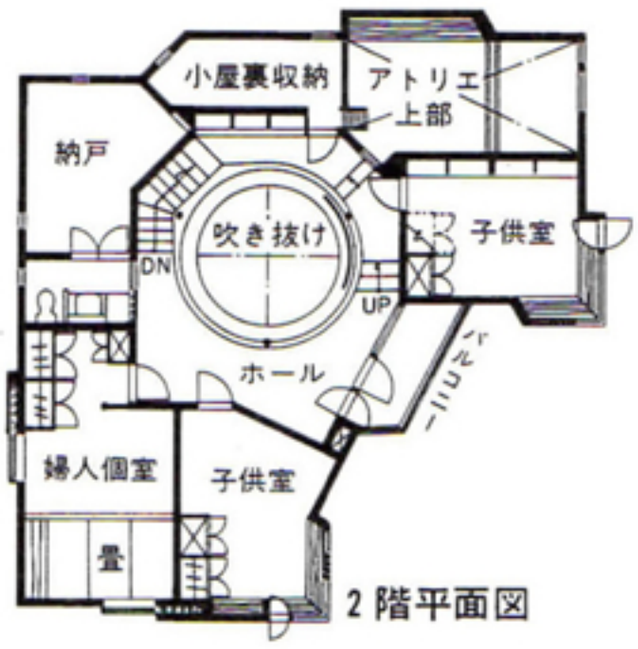
設　　計	設計室MORI
	（森　史夫・酒井行夫）
施　　工	頚城建設㈱
敷地面積	180.69㎡（54.67坪）
床面積	地階　11.09㎡（3.35坪）
	1階　92.78㎡（28.07坪）
	2階　61.86㎡（18.72坪）
	合計　165.73㎡（50.14坪）
構　　造	木造（一部RC造）2階建て
家族構成	婦人＋子供2人

❺アトリエの上にある子供室。はめ殺しのガラスコーナーの明るい出窓

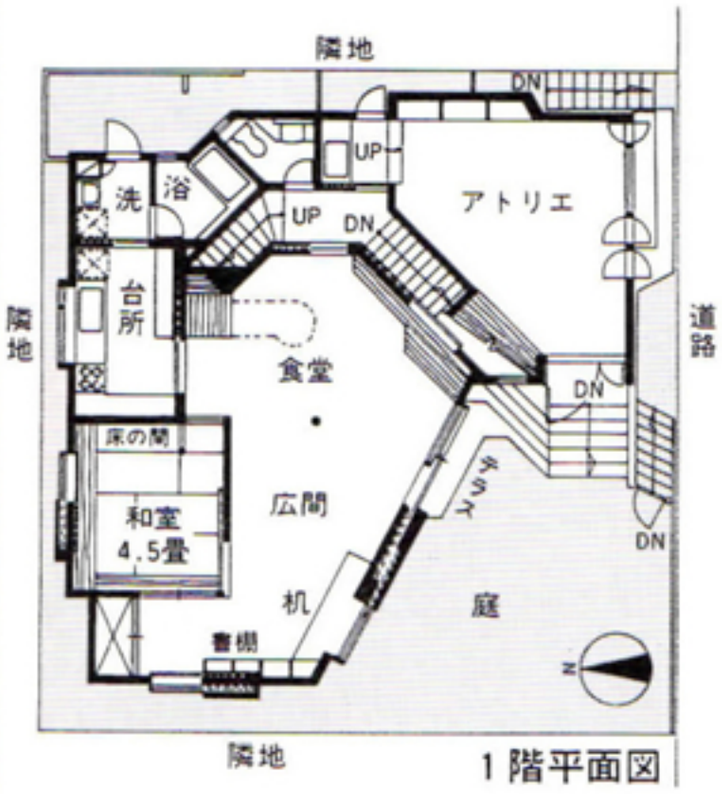
❻一階の東南にある彫刻のアトリエ。壁、天井には、屋根下地材のセンチュリーボードを張っている。



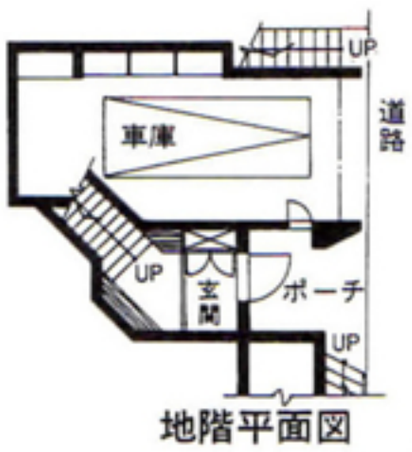
2階上部平面図



2階平面図



1階平面図



地階平面図

❼円形吹き抜けのある二階ホール。手すりを兼ねた台の下は書棚になっている。このホールのまわりに家族それぞれの個室を配している。

❽二階ホールから一階の食事スペースを見下ろす。壁から突き出たトラスは食卓の照明器具の位置を自在にする工夫である。

両親の住まいの庭先に建てた若夫婦の家は間仕切りなしのワンルームで広々と使えます

設計／ネクサス・プランニング

❶南側外観。懐に庭をかかえながら、にょっきり首をもたげた表情である。100mほど先から、このまなざしでいつも出迎えてくれる。
❷気取りのないオープンスタイルのキッチン。しゃもじ形のテーブルを造りつけ、キッチンの建具も木質系で統一している。左側は居間。
❸1階の居間から食堂方向を見る。ナラフローリングに漆喰壁、米松の化粧梁とラワンベニヤの天井。民家調の素朴な素材感には、やはり紙障子がよく似合う。
❹居間から玄関方向を見る。玄関から続くギザギザの壁と窓の構成が空間の基調。ふだんは、玄関を仕切る障子を開け放してある。

両親の住まいの庭先に建てた若夫婦の小住宅である。単体でみると奇妙なプランのようであるが、母屋の居住性を損なわないように、西側から庭を取り囲むように配置、さらに玄関先の塀も延長して四分の三ほど囲まれた中庭をもつコートハウス的な構えになっている。そして、二階にも共有の大型ベランダが母屋の屋根の上に設けられている。

内部は、子供がまだ小さい（三歳半）せいもあって、各階とも間仕切りなしのワンルームで広々と使われている。将来、二階を適当に仕切って子供のスペースを確保する予定である。出入り口を木戸つきの塀で囲んだおかげで、サンルームのようなフランクな玄関と階段室ができた。そこを下って、地下には主人の趣味であるドラムの練習室がある。親子互いのプライバシーをそれとなく守るため、居住空間が対面してしまうのを避け、庭に向かって壁と窓とがギザギザに配置されている。

外観的には、狭い前面道路による斜線制限と、母屋や隣家への日照の配慮などにより、ほぼ自動的に形づくられた外郭と、前述したラジエーターのようなギザギザや、壁・屋根ごと飛び出した出窓やトッププライトが、アクティブで力強い表情を出している。特に塀からにょっきり首をもたげ、町並みや行き交う人々、訪れる人々にキュートなまなざしを投げかける玄関上部の出窓が、この家のシンボルのような気がする。住まう人の飾らない好奇心の素直な表現になっていれば幸いである。

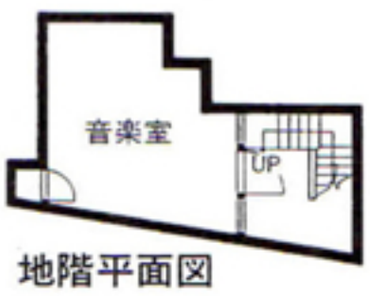
（伊藤哲郎）

3

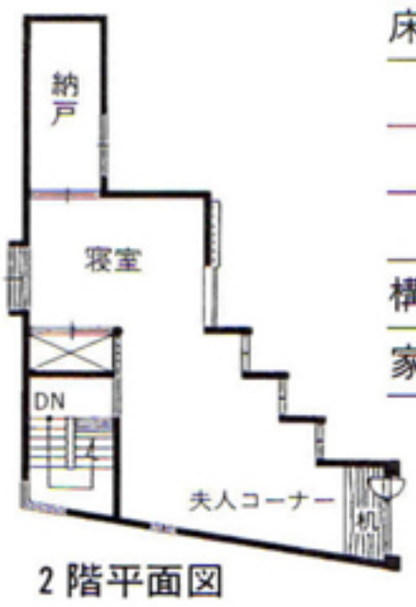
4

❺2階もやはりギザギザが空間の基調。フローリングにラワンベニヤの質素な素材感が、逆に精神生活におけるゆとりの表現になる。
❻サンルームのような玄関兼階段室。気取りのない自然体で迎えてくれる。
❼地下のドラム練習室。床、壁、天井に吸音材を使い、入り口脇のガラスも二重にして防音処理している。

1階平面図



地階平面図



2階平面図

設　計	ネクサス・プランニング（伊藤哲郎）
施　工	頚城建設㈱
敷地面積	102.11㎡（30.94坪）
床面積	地階　22.206㎡（6.73坪）
	1階　40.489㎡（12.27坪）
	2階　38.011㎡（11.52坪）
	合計　100.706㎡（30.52坪）
構　造	木造（地下RC造）2階建て
家族構成	夫婦＋子供1人

❽ 2階。正面奥は夫人コーナー。屋根の形をそのまま内部造形に利用。小屋裏部屋もすぐできてしまうほど、いろんな可能性をもった空間である。

主婦と生活社●定価2,000円(本体1,942円)
ISBN4-391-11390-2 C0052 P2000E